



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2024

3月22日号

199
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

映画「大怪獣のあとしまつ」 という発想



会長 新里 昌一

2022年2月に特撮映画のこの題名を聞いて、そう言う発想があったかと感心しました。小学生の頃から、ウルトラマン等のヒーローに幾多の怪獣や悪い宇宙人が倒されてきたのを見てきました。残り時間僅かで必殺技を使い、怪獣を倒す姿に心踊らされました。使命を終えてウルトラマンが飛び去った後、怪獣の残骸をどうするかなど、よもや考えつかないかったです。子供心には、何で怪獣や悪い宇宙人とかが東京や日本ばかりに現れるのか怖かったです。当時バルタン星人が出てきた悪夢は、今でもしっかりと覚えています。

初代ウルトラマンが何故3分しか戦えないのか？3分間際でカラータイマーが点滅します。会社(大人)の都合で、怪獣とのバトルシーンは莫大な金がかかるため、3分に抑えるためと後になり知りました。

怪獣が大暴れして町並みを破壊するだけでも大災害ですが、倒した後にも問題が残っていました。怪獣は食べられそうにないし、放置すると腐敗して始末に負えない気がします。荒唐無稽な話ですが、廃棄物処理の問題や環境問題等を考えさせられる機会かも知れません。

ただ、この題名の映画の評価は最低で、あらすじを知って駄作だと分かり観るのを取りやめました。発想は良かったのに残念です。

TCRT2021でも発想を変えて、ハイブリッド開催に絡めてoViceと言う仮想空間を使った学会を行いました。福島医大保健科学部の久保先生に教えていただきましたが、私には思いつかない柔軟な発想です。大会長と言う表向きの顔がある一方で、実行委員長を始め会計や企画委員・実行委員が裏方として本当に奮闘してくれました。

新しい技術(AIとか)を取り入れて発想を変えてみる事は、仕事でも大事になってきます。歳を取るとどうしても固定観念に縛られますが、柔軟な考えが必要です。JART地域理事は6月総会まで、県会長は後1年の任期ですが何とか鞭を打って頑張ります。この巻頭言についてもChatGPTだと簡単ですよと言って貰いましたが、爺さんにはどうして良いか分かりません。

明治時代の思想家・岡倉天心は、『変化こそ唯一の永遠である』という言葉を残しています。大事にしたい格言だと思います。これからも皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いします。

余談ですが、映画といえば2023年8月に「サンドランド」を観てきましたが、単純に感動しました。ここでも魔物は悪との発想が違って面白いです。歳にとって良かった事はシニア割引が使える事です。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 高橋規之

2019年4月に本学部の設置準備室に着任してから、月日は早いもので5年が経過します。2021年に入学した一期生は、この4月から4年生になります。本学部でも他大学と同様に、3年生の後期から卒業研究が始まりました。私は、以前は診療放射線技師として病院に勤務しており、また、40年近く前に卒業した東北大学医療技術短期大学部では、当時、卒業研究というものがありませんでしたので、卒業研究を受けたことがなく、どのように行えば学生のためになるのか、研究が学生の大きな負担にならないようにするにはどうすればよいか、など色々悩みました。そんな中、昨年10月から卒業研究がスタートしました。ここでは、始めたばかりの研究室での卒業研究について紹介します。

私の研究室には、昨年10月に3人の学生が配属されました。大竹美月さんは会津美里町出身、佐藤和香さんは伊達市出身、蓮見功佑さんは栃木県佐野市出身です。大竹さんと佐藤さんは福島県内、蓮見さんは日本全国を視野に就職を考え、3人は日々学業に専念しています。また、助手の山尾天翔先生にはサポート役として加わっていただき、私を含めた5名で研究室として活動を始めたところです。

研究室での卒業研究は、学生にとって非常に重要な経験であり、これから就職した後の専門知識や研究スキルを向上させるだけでなく、問題解決能力や論理的思考を養う面でも大いに役立つと思います。一方で、学生には、国家試験に合格するという至上命題があり、最終的には就職や進学が最も重要な目標となっています。したがって、研究室の教員は、卒業研究のみならず、国家試験対策と就職活動を支援するという大きな役割が課せられています。私が学生だった昭和は、良くも悪くも放任主義が一般的であり、国家試験対策の勉強も各自のやる気次第でした。今はこれが通用するはずもなく、時代に合わせて学生の対応をしなければならぬことを痛感しています。

卒業研究では、学生向けにテーマを決めその内容を考えます。これが意外と難しいことに気づきました。今回の3名は就職を目指しているため、将来、専門分野において実践的なスキルや知識を自ら深めることができるような力をつけ、将来の実務にも役立つ研究が望ましいと考え思案しています。実務で起こる問題や課題などを解決し、その内容を学会などで発表できる能力が身につくことを願っています。

来年4月には、遂に本学の第一期生が社会に旅立ちます。皆様に認められる人材になれるよう卒業までサポートしていきたいと思っています。



研究室のメンバー
(左から私、蓮見さん、大竹さん、佐藤さん、山尾先生)



研究風景

～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「謹賀新年」 1月1日

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。元旦には、能登半島を大地震が襲い、死者や多数の行方不明者が出ています。半島と言う地形もあり、交通インフラが遮断されて支援物資や自衛隊・DMATの活動にも影響を及ぼしています。これから長い道のりをかけて復興へ進む訳ですが、東日本大震災を経験した我々から出来ることを考えていきましょう。JARTとしても会員の情報収集に努めています。また、義援金募集も開始されました。

2024年は辰年ですが、十二支のなかでは唯一の架空の生き物です。天高く昇る龍のように皆さんや技師会が活躍できる年にしたいものです。

2 「第2回東北地域企画委員会」 1月17日

企画委員から企画案を出して貰い、検討して内容

を詰めていきました。予備案も含めて幾つかの企画案を作成していただきました。2月4日の東北会長及び教育委員の会議で議論し承認となります。

3 「第7回JART理事会」 2月24日

現在の事務所のアスベスト問題で移転を検討しています。大家の都合なので、家賃が安く広いスペースを取れそうです。私からは、東北地域から幾つかの質問を行いました。

4 「第5回執行部会&理事会」 2月29日

久しぶりに医大（看護学部）を会場にしてハイブリッド開催を行いました。来年度事業計画案と予算案を含めて議論が出来ました。また課題も多く残り、これからも色々と進めて行きます。能登半島地震についての災害支援も規程に則り進めたいと思います。



地区だより

浜通地区

「第37回いわき地区画像技術研究会」開催

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 広藤喜章先生を講師にお迎えし、令和6年2月2日 参加者33名が集まる中、『医療被ばく相談に必要な基礎知識～自分を知って相手を知る～』と題して、特別講演がありました。

①心理学②リスク認知③リスクコミュニケーション④医療被ばくに対するリスクと4つに分けてお話があり、最後にまとめとしてお話頂いたのは、

◆リスクコミュニケーションは対話と共考の場づくり

- ・可能な限り開示、互いに共考、解決に導く道筋を探す
- ・リスクを低く評価し、ベネフィットを高く見積もる

◆SNSなどの情報源から同じ考えが増幅しがちに注意

◆実践にはそれまでの訓練と準備が必要

◆最も重要なのは「信頼関係を築くこと」

- ・信頼は長時間の努力によって培われるもの

であるとの事でした。

普段、患者様と接する短い時間でも信頼関係・共考の場を築いていけるようになる事が大事だと感じました。

ご多忙のところ講演して頂いた広藤先生、参加された皆様ありがとうございました。



(清野)

画像であり、評価に適した画像を撮影するために撮影前から検査・診断の目的を意識し考えることが必要であるそうです。

講師の皆様には講演後の質問も丁寧に答えていただき終了予定時間を超えてしまいました但有意義な勉強会であったと思いました。



(大井)

令和5年度「相双地区画像勉強会」が開催される

令和6年2月21日相馬市総合福祉センターはまなす館にて相双地区画像勉強会が開催されました。新型コロナ感染の影響のため4年ぶりの開催であり、今回は懇親会を行わず勉強会のみとなりました。会員24名、非会員2名の技師の皆さんが参加されました。

特別講演として「教えて！放射線科医がどのような写真を求めている、どのような写真がNGなのか」という題目で、依頼する立場から「イーメディカル東京・杉澤浩一様」、読影医の立場から「大原総合病院・箱崎元晴先生」にお話をいただきました。

遠隔読影に対しての読影医が求めているCT画像の説明があり、MPR画像・アーチファクト・拡大再構成画像（薄層スライス）・比較（過去）画像のお話がありました。

読影に対してNGな撮影・画像とは評価したいものが評価できない（評価に適した画像ではない）

県南地区

令和5年度県南地区協議会新年勉強会

以下の日程にて「令和5年度県南地区協議会新年勉強会」が開催されました。

日時：2024年1月27日(土) 14:00～16:40

場所：郡山市 郡山駅前ビックアイ7階

第1会議室（現地開催のみ）

参加人数：会員13名、非会員12名

ここ数年はコロナ感染症の蔓延防止対策に伴って、Web配信での勉強会開催が主となっていました。今年度は、コロナ感染症が感染症分類上5類相当に引き下げられたため、4年ぶりに現地開催のみの勉強会として実施しました。勉強会の内容としては、各メーカーからの話題提供と、特別講演の内容であり、今回は福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 助教の田代雅実先生に「診療放射線技師が身につけておくべき災害スキル」

という内容で、講演して頂きました。

1. メーカー話題提供

GE、キャノン、富士フイルムメディカルの3社から各社の最新機種の情報提供があり、各社11月下旬に実施されたRSNAで報告されたMRI装置の最新情報や、AI技術とDeep Learningを組み合わせた最新技術の紹介となりました。Deep Learningでは各社処理方法は異なるが、どの機種でも、撮影時間を短縮しつつ高画質な撮影対応ができる仕様となっていた。現時点ではCTやMRIに主に備わっているが、今後様々な装置、ソフトへの応用が期待できる技術であると感じました。

2. 特別講演「診療放射線技師が身につけておくべき災害スキル」

田代 雅実 先生

今回は特別講演として、福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 助教の田代雅実先生に「診療放射線技師が身につけておくべき災害スキル」という内容で、講演していただいた。今年の

1月1日に、能登、石川沖で最大震度7という大地震が発生した後の講演となり、リアルタイムな話題となりました。講演を依頼した際には、東日本大震災から10数年経ち若手スタッフは病院内での災害の状況などを知らない世代が増えてきていたため、改めて防災や災害時の病院としての対応を学ぶ目的で、田代先生に講師を依頼しておりました。依頼後に偶然、能登、石川沖での大地震となり、改めて災害の怖さ、いつ災害が発生するかわからないという状況を考えさせられました。田代先生の講演では、放射線技師の立場から災害発生時の行動や、災害医療の基礎知識などを分かりやすく講演していただき、放射線技師が災害発生時に取るべき対応を理解できたと思われる。

ご発表された皆様の、益々のご活躍を祈念いたします。

質疑応答も活発に行われ、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

(三瓶)

編集後記

春一番が吹き、吹く風も心地良い季節になりました。花粉も早くから飛散され厳しい生活になっている方も多いでしょう。次回はメモリアルの200号になり記念すべき福島放ニュースになるでしょう。何かと忙しい時期ではありますが、共に乗り越えていきましょう。

(長谷川)

会告

定款第14条2項1号に基づき、下記の定時総会を開催いたします。

記

第13回(令和6年度)
公益社団法人 福島県診療放射線技師会定時総会

書面表決書提出締切: 令和6年5月22日(水) 必着

総会日時: 令和6年5月25日(土) 14:00~

新型コロナウイルス感染拡大の収束が未だ見えない中、会員皆様の安全確保及び感染拡大防止の観点から、昨年同様、書面表決での定時総会とさせていただきます。

つきましては、別紙の総会資料をお読みの上、お手数ですが**令和6年5月22日(水)必着**で、書面表決書をご提出ください。

定時総会へのご意見等がありましたら、各協議会や理事までお知らせください。直接、県HPへメールしていただいても構いません。なお、一般公開講演や各表彰も中止といたします。会員皆様のご理解を宜しくお願いいたします。

結果については、各理事や県HP、福放技ニュースにてお知らせいたします。

ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

以上